

学校教育目標	
「かがやき ひびきあう 六つ西の子」 ○主体的に考え、対話的な学びを通して学び続ける力を育てます。(知) ○自分や周りの人への理解を深め、互いをかけがえのない存在として大切にすることを育てます。(徳) ○望ましい生活習慣や楽しく運動する習慣を身に付け、心身ともに健康に生きる力を育てます。(体) ○学校や地域の中で、自分の役割と責任を自覚し、他者と協働する力を育てます。(公) ○自他の違いを受け止めながら、様々な人と進んで関わり、共に生きていく力を育てます。(開)	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力		具体化した資質・能力													
<table border="1"> <tr> <td>かがやき</td> <td>創造する力 計画力 思考力</td> <td>ひびきあう</td> <td>発信力・傾聴力 規律性 協働性</td> </tr> <tr> <td>六つ川中学校アロップで 育成を目指す資質・能力</td> <td>判断力 やりとげると 主体性</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>自立のための基礎力</td> <td>実行力</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	かがやき	創造する力 計画力 思考力	ひびきあう	発信力・傾聴力 規律性 協働性	六つ川中学校アロップで 育成を目指す資質・能力	判断力 やりとげると 主体性			自立のための基礎力	実行力			学校の代表としての自覚をもった行動をしたり、夢や目標をもち生き方を追求したりする力。 よりよい学校を創り上げるために、地域等社会とのつながりを大切にし、協働的に解決する力。	低学年・・・実行力、積極性 中学年・・・やりとげると、発信力 高学年・・・思考・判断力、協働性	
かがやき	創造する力 計画力 思考力	ひびきあう	発信力・傾聴力 規律性 協働性												
六つ川中学校アロップで 育成を目指す資質・能力	判断力 やりとげると 主体性														
自立のための基礎力	実行力														

中期取組目標
○学校教育目標「かがやき ひびきあう 六つ西の子」の具現化を目指し、子ども一人一人を大切にすることを実践します。 ・低学年では、自分に自信をもち、自分らしさを発揮しようとして、身近な「ひと・もの・こと」に積極的にかかわったりしようとする力を育てます。 ・中学年では、物事の過程を大切に、やり遂げようとして、他者と考えを尊重し合い、思いや考えを伝え合ったりする力を育てます。 ・高学年では、夢や目標をもち生き方を追求したり、地域等社会とのつながりを大切に、協働的に解決したりしようとする力を育てます。 ・教職員だけでなく、家庭、地域との連携も密にし、「オール六つ西」で子どもたちを育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学びの質の向上 担当 教育活動推進	①重点研究を通して、「かがやき(必要感・達成感)」「ひびきあう(相手意識・目的意識)」子どもの姿を引き出せるような授業づくりをしていきます。②人、もの、ことと向き合いながら学び、積極的に関わろうとする姿を目指すために相手意識や目的意識を明確にし、学習活動に取り組めるようにします。③チャレンジルームを設置したり、授業形態の工夫をすることで、複数の教職員が児童の実態に応じて一人ひとりに指導していきます。

学力向上に関わる本校の状況
(1) 学力の概要と要因の分析 全体的には、横浜市の平均を下回る学力である。しかし、意識調査においては、教科が多くなり専門性が高くなる高学年でも、横浜市平均に届いており、学習に対して前向きな意識をもっているという結果が出ている。これからは基礎・基本を定着させ「できるようになった」という気持ちを大切にすることや、自分たちでたてた課題を解決することを大切にすることがある。 2) 教科学習の状況 ○国語科: 知識・理解の正答率が高い学年が多い。しかし、書くことについての結果が低いため、知識を基にして考えや意見を論理的に表現する力の育成が課題である。 ○算数科: 数学的な考え方を問う問題の正答率が低い。 ○社会科: 偏りがなく、各領域においてバランスよい正答率である。 ○理科: 知識・理解に比べ、思考・表現の項目が低い。言葉の意味を的確に捉えるのに加え、それを用いて説明する力などを育成する必要がある。 (3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析) どの学年においても、教科ごとの学習意欲が高ければ高いほど、学力テストの結果も比例して高い数値がでる傾向がある。意欲を大切にしながら知識を身に付け、知識を応用する問にも挑戦できるような学習への粘り強さを育てていくことが重要である。また、実感が伴った知識を獲得するためにも、低学年から体験や経験を積み重ねられるような授業づくりをする。

今年度の目標	
①重点研を軸にブロックごとにかがやく姿・ひびきあう姿を系統立て、目指す児童の姿を明確化し、研究を深める。 ②人、もの、ことと向き合いながら、他者と協力しながら学習活動に取り組む素養を育む。 ③一人ひとりにあった課題を とらえ、担任と担当者の連絡を密に取りながら進度や理解度に応じてきめ細やかに支援する。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①重点研究を軸に、子どもの興味関心を引く課題設定や学習問題づくりをする。子どもの学習意欲を引き出すために行う手立てを共有し、積み重ねていく。 ②子どもの体験や経験を積み重ねられる材の選定、指導の見直しをもつ。 ③算数を基本として、一人ひとりに合った個別指導(支援)を行う。そのために、その児童に必要な課題を担任が用意し、担当教員との連絡を密にこする。チャレンジルームの時間割を策定し、担任も児童も時間の見直しをもちながら学習を進める。・担当教員と担任がファイルでやり取りを記録できるようにする。
下半期	①学習課題や活動を自ら設定し、解決するための方法を自分たちで考え実行する機会を設ける。・重点研で学んだ指導の在り方、目指す児童の姿をより明確にし、国語だけでなく他の教科にも生かすことができるようにする。 ②他者の考えを受け入れ、自分の学習の深まりをもてるよう、話し合いや相手意識をもって表現する。 ③チャレンジルームの教科を算数だけでなく、広げ、より一人ひとりの課題に寄り添った学習支援を行う。そこで学んだことを活かし、全体指導の場でも活かす。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当 児童・生徒指導	①「きらきら集会活動」を中心として、異学年同士のつながりや相互理解を深めます。②道徳の時間の充実、人権週間の取組を通して、自分も相手も大切にできる子を育てます。③読書活動や様々な芸術に触れる機会を充実させ、見方や考え方を広げることで児童一人ひとりの感性を育てます。

豊かな心に関わる本校の状況
○行事などを通して、上級生が下級生に温かい気持ちで接する姿が見られる。 ○上級生は責任感、下級生は安心感をもって交流活動をしている。 △コロナ禍の影響があり、コミュニケーションや行事参加の経験が減っている。 △読書週間のない子が3割程度いる。

今年度の目標
異学年交流や道徳の時間、人権週間の取組を通して、友達を大切にできる心を育てます。読書活動や芸術鑑賞を通して、一人ひとりの感性を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①きらきら集会と体力アップを定期的に行う。 ②道徳研修を行い、自他の考えを認め合う授業づくりを目指す。 ③芸術鑑賞を通して、表現活動への意欲や技能の向上につなげる。
下半期	①異学年のペアとのつながりを生かし、学習活動での交流を行う。 ②人権週間の取組を中心として、「だれもが」「豊かに」生活できる風土を醸成する。 ③朝読書を通して、様々な知恵や考えに触れる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体 担当 体育部	①体力アップを通して、継続的に運動に親しむとともに、自分に自信をもてるようにします。②主体的に体育科学習に取り組む子どもを育てるため、学習資料や教員の研修を充実させます。③学校保健委員会等の取組で、withコロナの学校生活の充実のさせ方を、子ども自身が主体的に模索できるようにします。

健やかな体に関わる本校の状況
(1) 体育・健康に関する実態 ・体を動かすことに関しては、地域に広場が多く、友達と一緒に体を動かしたり、地域のクラブに所属し熱心に練習に取り組んだりしている児童がいる。その一方で、週にほとんど体を動かさない児童もおり、二極化しているといえる。 ・感染症対策のため、外遊びの時間を制限しており、学校の中で体を動かせる機会は減ってしまった。それでも子どもたちは一校一実践の体力アップ集会に意欲的に取り組んでいる。 ・体育科の学習が好きだと答える児童の割合は高学年で市の平均以上になる。 (2) 体力の概要と要因の分析(市平均と比較して) ○力強さや柔軟性がある。 △タイミング良く体を動かすことが苦手。 シャトルランで平均を下回らなかったことは、体育科授業や体力アップタイムでの充実した活動が奏功しているものと考えられる。しかし、全国的にも体力の低下が目立つ。引き続き、運動の習慣化を行っていくような活動を計画していく。また、タイミングの良さ等を測る種目2種(反復横跳び・ソフトボール投げ)で平均、また平均を下回っていることから、全身の調和をとって運動する体づくり運動の充実や短縄・長縄の継続的な取り組みを続けていきたい。

今年度の目標
①体力アップ活動、休み時間の運動遊びを通して、体力向上を目指します。 ②主体的に学ぶ活動を通して、運動の楽しさを実感させます。 ③栄養士、家庭、校医と連携して、食育、歯科保健教育の充実を図ります。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	《体育科・保健体育科での取組》 ○体力アップの時間を活用して、運動の楽しさにふれる機会を多くもてるようにする。また、継続的な取り組みによって自分の体力の向上を実感したり、運動の心地よさを味わったりすることを通して、運動に前向きに親しむ素地をつくっていく。 ○学習指導要領に基づき、系統性をもったバランスのよいカリキュラム作りを行っていく。 ○学習カードを活用して、自分の力にあった課題や場を選ぶ力を高めていくよう指導する。 《他教科での取組》 ○家庭科では、食育との関連を図り、健康や体の長に関わる事項について授業を通して伝えていく。 《学校行事や特別活動での取組》 ○体力テスト ○横浜の時間 ○宿泊体験学習
下半期	《学校行事や特別活動での取組》 ○運動会 ○球技大会 ○横浜の時間 ○歯科巡回指導 ○栄養士食育講義 学校保健委員会では、テーマとして生活環境・安全・保健・健康・体力向上を掲げて、全校の話題としていく。食育目標の理解と実施に向け、栄養士などから食育に関係する講義を発達段階に応じて行っていく。